

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ

xSDG コンソーシアム 2025 年度 研究プロポーザル

慶應義塾大学 SFC 研究所では、持続可能な社会を実現し、多様で複雑な社会における問題解決を行うため、2017 年 10 月に xSDG・ラボ(エックスエスディージーラボ)、2018 年 6 月に「xSDG コンソーシアム」を設立しました。スタートアップとしての第 1 期研究期間(2018-2020 年度)に続き、「行動の 10 年」の始まりを告げる第 2 期研究期間(2021-2023 年度)を経て、第3期研究期間へと突入します。2025 年度も、今まで以上に未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間である企業や自治体といったステークホルダーのみならずと研究者とのコラボレーションにより、SDGs 目標達成へむけた先進事例や優良事例を作り、これを日本から世界に発信し、スケールアップを実践できればと思っております。皆様のご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

* xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間を「Vision Sharing Partner(VSP)」(会員)と呼称します。

【目的】

SDGs 達成へ向けたアクションの優良事例の創出と行動基準づくりを行い、これを通じた知識と実践の基盤を構築する

【活動内容】

1) コンソーシアム・ミーティングで、アイデアやコラボレーションの創発

全体会合となる「コンソーシアム・ミーティング」において、テーマに沿った有識者や関係省庁関係者による専門的知識や最新動向など情報提供や、議論・意見交換を実施する場の提供、各会員企業様による取り組み、グッドプラクティスや直面する課題の共有を通じた課題の解決に向けた議論やコラボレーションの創出、など、各種活動を通じて、SDGs 達成へ向けての変革の促進、SDGs 的アクションのあり方を検討します。また、SDGs の国際動向や国内実施、指標、政策の動き等に関する情報提供などを行います。

今年度は、会員の皆様の最も関心の高いテーマを各回で取り上げ、そのテーマに沿った専門家による講演、ワークショップなどの実施に加え、VSP-S、D の皆様による SDGs 推進に関する取り組みの発表や、これまでで見てきた課題の洗い出し、より良いアクションに向けた提言などを、専門家も交えて議論し、情報や意見の共有をできる場を設ける予定です。

* 社会状況に応じて、交流会(レセプション形式)の設定も行います

2) Action Oriented Project (AOP) で、具体的なアクションの創出へ

これまで分科会の活動を通じた個別課題を掘り下げた検討、課題解決につながるアクションの模索を続けてきました。今期からはそこからさらに一歩踏み出す形で、具体的な研究プロジェクトへのご参加を通して、アイデアを具体的なアクションへと移していくフェーズに進みます。AOP は具体的なアクションで協働する「場」というイメージです。今期は以下の AOP の実施を予定しておりますが、皆様からのご提案をオープンに検討したいと思っておりますので、積極的なご提案をお願いします

シナジーとトレードオフ:

2024 年度に引き続き、適応・生物多様性・循環型社会を中心とした脱炭素へ向けた環境問題と、SDG とのシナジー・トレードオフの研究を進めます。理論的なシナジートレードオフの検討と同時に、地域の中で生じているシナジーとトレードオフの検証や、ビジネスの現場に生きるシナジートレードオフの検討を進めます。

ヘルスコモンズと SDGs

2024 年度に引き続き、慶應義塾大学などが科学技術振興機構 (JST) の「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」の一環として実施する「誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズの共創拠点」事業と連携し、本事業において提唱している「後病」のコンセプトや、それに関連する取り組みについて、SDGs の観点から評価、分析を行い、ポスト 2030 年目標に生かしていくためのコンセプト作りを始めることも視野に活動を実施いたします。

SDGs とウェルビーイング

企業や自治体では近年「ウェルビーイング」への取り組みが浸透し始めている一方で、その定義は場面や立場によって異なることや、実際にウェルビーイングを測る指標、効果の定量化が難しい側面を持ち合わせております。xSDG コンソーシアムでは、企業、自治体、大学と、多角的な視点を取り入れながら、「ウェルビーイング」のあり方やその進め方などについて、幅広く議論、検討を進めてまいります。

※ AOP につきましては、研究プロジェクトの進捗状況などにより、計画が変更となる場合がございます。

上記以外のアイデアも募集します。既存の共同研究の延長線上でパートナーの皆様と進めさせていただく方法や、新たな形の共同研究も進めていきたいと考えています。共同研究をご希望されます会員の皆様、Action Oriented Project のプロジェクト案のご提案をご希望されます会員の皆様におかれましては、ぜひ事務局にご相談ください。

* VSP-S (S 会員) および VSP-D (D 会員)、VSP-LG (自治体会員) は、プロジェクトの設置提案と運営、参加が可能。VSP-G (G 会員) および VSP-SME (中小企業会員) は 1 プロジェクトまで参加が可能

3) 勉強会を通じた最新情報の提供

SDGs に関連する国内、国際動向に合わせた最新情報をより多く提供できるよう、専門家を招いた「勉強会」を開催します。

毎回 SDGs に関連する個別のテーマをピックアップし、最新情報を学び、その先を議論できる機会を設けたいと考えております。

今年度は、2030 アジェンダの履行に関する自発的國家レビュー (VNR) や、ウェルビーイングなどを取り上げる予定です。

今年度は、勉強会を兼ねたフィールドビジットの実施も予定しております (内容、詳細は後日発表予定)

4) 企業と地方自治体、関係省庁と NGO/NPO とのコラボレーション創出

コンソーシアム・ミーティングや AOP に、企業と地方自治体、オブザーバーとして関係省庁や NGO/NPO が参加することで、パートナーシップ (目標 17) による目標達成を実装します

想定されるパートナーシップ: 内閣府地方創生推進事務局「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」と連携し、官民マッチング後の課題検討を深掘りし、実態を伴うプロジェクトを創出、など

5) コンソーシアム相談会の開催

アクション創出へ向けたアドバイスの実施をいたします。

産学官連携、ユースとの連携など、本コンソーシアムならではの環境を活かした、アクション創出へ向けた協働を一緒に考えたいと思っています。

* VSP-S(S 会員)および VSP-D(D 会員)が対象。随時ご希望に応じて対応いたします。

6) シンポジウム等の開催、登壇

* VSP-S(S 会員)、VSP-D(D 会員)が対象

7) 年次報告会の開催

8) 年次報告書の公表

9) 「SDGs 白書」の刊行

10) その他の媒体による発信:例;朝日新聞未来メディア 2030 での発信、など

以上に加え、SDGs 推進事例として VSP の活動を取り上げる書籍企画(参考:『企業のリアルな事例でわかる SDGs の課題別推進方法』第一法規)、学生との協働(寄付講座設置(別途お申し込み)、授業との連動など)などの機会も検討いたします。なお、本ラボの活動にご参加いただいた場合、ご希望があります場合、SFC 研究所 ヘルス・ランニングデザイン・ラボ(代表:蟹江憲史 <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/rdlab/>)の一部活動へのご参加も可能となります。

* 全研究期間をつうじた活動による

【成果(予定)】

- ・ 年次報告会の開催(VSP-S(S 会員)および VSP-D(D 会員)、VSP-LG(自治体会員)による報告、など)
- ・ 年次報告書の発行(メンバー、VSP-S(S 会員)および VSP-D(D 会員)、VSP-LG(自治体会員)を中心に分担執筆)
- ・ 「SDGs 白書」の刊行(メンバー、VSP-S(S 会員)および VSP-D(D 会員)、VSP-LG(自治体会員)を中心に分担執筆)
- ・ 各プロジェクトによる成果
- ・ 国連による「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム(High-level Political Forum on Sustainable Development; HLPF)などにおいて、xSDG・ラボおよび xSDG コンソーシアムが主体となり、公開イベントをニューヨークで開催
- ・ 共同研究の実施
- ・ シンポジウム等の開催(VSP-S(S 会員)による)

* 全研究期間をつうじた活動による

【研究期間】

第3期研究期間:2024 年 4 月-2027 年 3 月

2025 年度研究期間:2025 年 4 月-2026 年 3 月

【2025 年度活動計画(予定)】

- ・ コンソーシアム・ミーティング(年 3-4 回程度開催)
- ・ 年次活動報告会(年 1 回開催)
- ・ 「年次報告書」発行
- ・ コンソーシアム・相談会開催
- ・ 各 Action Oriented Project 活動(活動内容については各プロジェクトにより異なる)
- ・ 勉強会(年 3-4 回程度開催予定)
- ・ デジタル・プラットフォームの提供
 - 会員メーリングリストへのご参加
 - ニュースレターの配信等による電子媒体での情報提供
- ・ 外部イベント(シンポジウム等)への参加

【対象となる VSP(会員)】

- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える企業、組織団体
- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える自治体

【Vision Sharing Partner 制度(会員制度)】

xSDG コンソーシアムは、SFC 研究コンソーシアム

(<https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/consortium/>)として実施される共同研究(年会費制)の一種となり、会員種別は次のとおりです。

xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として、会員の呼称を「Vision Sharing Partner(VSP)」としています。

■ 特別会員

VSP-S(S 会員):xSDG・ラボとの共同研究および寄付講座を推進する(第3期研究期間(2024 年度から 2026 年度)において実施(予定含む))企業および自治体。年会費は、他の会員種別と同額となります

- ・ SFC との共同研究実施など、テラーメイドの活動を推進いただけます。共同研究の推進にあたっては、xSDG コンソーシアム VSP のみなさまとの協働により進める方法も可能です
- ・ コンソーシアム運営会議の中心メンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ 今年度より設置します「幹事会」への参加を通じて、コンソーシアムの運営方針の決定などに携わっていただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会、および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
- ・ 年次報告会で、SDGs への取り組みや関連活動を発表いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

■ 企業・組織団体会員

➤ VSP-D(D 会員):100 万円/年

- ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ 今年度より設置します「幹事会」への参加を通じて、コンソーシアムの運営方針の決定などに携わっていただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

➤ VSP-G(G 会員):50 万円/年

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます(1 社あたり5名様まで)
- ・ AOP1つにご参加いただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます(1社あたり3 名様まで)
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

■ 中小企業会員

VSP-SME(中小企業会員)(SME:Small and Medium-sized Enterprises):30 万円/年

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます(1 社あたり5名様まで)
- ・ AOP1つにご参加いただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます(1社あたり3 名様まで)
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

* 中小企業に相当するかどうかについては、お問い合わせください

■ 自治体会員

VSP-LG(自治体会員)(LG:Local Government)

➤ 都道府県および政令指定都市:50 万円/年

➤ 市:30 万円/年

➤ 町村:10 万円/年

- ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に自治体名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

(会費は全て税別表記)

これまでの xSDG コンソーシアム Vision Sharing Partner につきましては、下記 URL をご参照ください。

http://xsdg.jp/activity.html#xsdg_consortium

【慶應義塾メンバー】

蟹江 憲史(政策・メディア研究科教授)
代表、統括

井上 雄介(政策・メディア研究科特任講師)
経済とSDGs

植原 啓介(環境情報学部教授)
ICTとSDGs

加藤 文俊(環境情報学部教授、政策・メディア研究科委員)
地域活性とSDGs

川久保 俊(理工学部システムデザイン工学科准教授)
建築・都市環境とSDGs

国谷 裕子(慶應義塾大学特別招聘教授)
SDGsの実施、ラボの研究成果発信、情報発信

佐久間 信也(SFC 研究所上席所員)
地方自治体とSDGs

田中 浩也(環境情報学部教授)
デジタルファブリケーションとSDGs

玉村 雅敏(総合政策学部教授)
地域活性とSDGs

古谷 知之(総合政策学部教授)
統計とSDGs

村井 純(慶應義塾大学教授)
IoTとSDGs

森田 香菜子(経済学部准教授)
ファイナンスとSDGs

【アドバイザー】

川廷 昌弘(Good Story Lab. 代表)

竹本 和彦(東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、SDSN Japan 事務局長)

平本 督太郎(金沢工業大学教授・SDGs 推進センター長)

森平 爽一郎(慶應義塾大学名誉教授)

カトラミーズ ターレク(芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科教授)

関係省庁

その他ステークホルダー

(お問い合わせ先)

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ事務局

252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

E-mail: xsdg@sfc.keio.ac.jp